

2015年（平成27年）1月15日（木）

紳士の道

人生の節目②



藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

人生の節目は人によつて異なる。その中で正月だけは誰しもの共通の節目だろう。夫婦二人だけになり、正月の準備は多少負担になると愚痴をこぼしたら、長女が「では私と三人でロンドンに行こう」ということになり、去年は初めて年末年始を海外で過ごした。それは家族の絆を大切にするためにもと、我が家で過ごす。長女も珍しく一週間近定期検査日で病院に行く

く滞在し、ほとんど一人で正月の準備をしてくれた。そして元日の夜は子供と孫全員が勢ぞろいして楽しい一時を過ごす。

大切なものを守るにはそれがあれど多少の犠牲を払わなければならない。だからこそ紳士の価値はさら

に強まるのだ。核家族化

といふ社会の流れの中で、と大勢の人。その多くが高齢者で暗い顔をしている。その傾向は男性ほど強い。男は組織の中にいる時代なのだと思う。

自分自身を鼓舞するた

めにもと元気ぶつたこと

人生の節目は人によつて異なる。その中で正月だけは誰しもの共通の節目だろう。夫婦二人だけになり、正月の準備は多少負担になると愚痴をこぼしたら、長女が「では私と三人でロンドンに行こう」ということになり、去年は初めて年末年始を海外で過ごした。それは家族の絆を大切にするためにもと、我が家で過ごす。長女も珍しく一週間近定期検査日で病院に行く

く滞在し、ほとんど一人で正月の準備をしてくれた。そして元日の夜は子供と孫全員が勢ぞろいして楽しい一時を過ごす。

大切なものを守るにはそれがあれど多少の犠牲を払わなければならない。だからこそ紳士の価値はさら

に強まるのだ。核家族化

といふ社会の流れの中で、と大勢の人。その多くが高齢者で暗い顔をしている。その傾向は男性ほど強い。男は組織の中にいる時代なのだと思う。

自分自身を鼓舞するた

めにもと元気ぶつたこと



高校時代の応援歌を心を一つにして歌った

を書いているが「老いる」とは正直に言えば哀しいことだ。しかし神が人間をそのように創られたのは意味があり、七十歳の後期高齢者になつても光輝幸齢者だと確信し、しかし、すぐそれは頭から消えた。幸せは人と比較するものではない。懶ペーンを取る。

昨年十一月一日、山口

市で弁護士をしている友人が「法曹生活五十年と

金婚式を祝う宴」を開いた。彼らはちょうど五十

年前のこの日に結婚式を挙げ、その披露宴の司会を私がした縁で、今回の宴の司会を手伝う。

一部構成で、一部はシンソンの夕べ、第二部が祝宴。出席者は二百五十人を超える。京都から二人の芸子も参加。日本広い

の節目を迎える。社会的

地位と名声と財力、同じ五十年でありますながらあまりの格差を全く感じなかつたと言えようそになる。友人の幸せを素直に喜ぶことが自分の幸せにつながっているのだ。妻

み、苦しみの多くは他人との比較から生まれる。幸せとは自分の心が決めると。

一人々々の紳士はみんな違う。異なる節目を持ちながら、その節目はその人の次のステップなのだ。みすゞの詩ではないが「みんなちがつてみんないい」の



彼のお陰でこんな写真も撮れた

んの彼女と私の三人が一緒にあつた。その紳士が今も続いていることがうれしい。友人の幸せを素直に喜ぶはじめ人との紳士こそが、自分の人生の伴侶だ。結婚生活五十年、彼らほどに生まれた一つ一つの紳士の宴は無理だが、その間に感謝を捧げたい。